

福岡県大牟田工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

大牟田工業用水道事業は、石炭関連工業により発達した大牟田市の臨海工業地帯（昭和39年に新産業都市の指定を受けている。）に工業用水を安定的に供給する目的で、昭和50年6月から給水を開始している。

○事業の経緯

大牟田工業用水道事業は、熊本県を流れる菊池川（一級河川）に水源を求め、昭和46年度に通商産業省（現経済産業省）の補助金を活用して着手し、昭和51年度に完成した。

その後、菊池川流域の洪水被害と渇水時の水不足を解消するために、国土交通省により菊池川上流竜門ダム建設事業（有効貯水容量4,150万 m^3 ）が昭和62年着工され、平成13年度に完成した。

竜門ダムの完成により、菊池川から安定的に取水ができるため、工業用水の安定的な供給が可能となっている。

○工業用水道施設の概要

- ・熊本県に所在する菊池川（一級河川）白石堰から最大1日80,000 m^3 を取水して、工業用水を供給するので、現在15社に対し、68,930 m^3 /日の給水を行っている。
- ・大牟田工業用水道事業の施設は、3者（熊本県、大牟田市、福岡県）及び2者（熊本県、大牟田市）の共有施設である。

<四者共有施設>

菊池川白石堰から高塚分水場までの約8.5kmの区間の工業用水道管と浄水場については、四者（福岡県、熊本県、大牟田市、荒尾市）の共有施設である。

<二者共有施設>

高塚分水場から宮原までの約10kmの区間の工業用水道管については、二者の共有施設（福岡県、大牟田市）である。

○需用者の概要

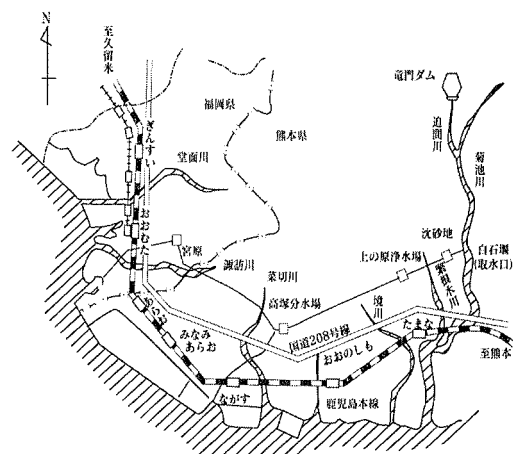
（平成20年3月末現在）

業種	給水件数	契約水量 (m^3 /日)
金属	1	130
電気	1	1,100
化学	1	51,000
セメント	1	120
ガス	1	3,020
非鉄金属	3	11,750
食品	2	900
薬品	1	280
石炭	1	60
その他	3	570
計	15	68,930

○事業の特徴

- ・共同施設であるため、建設コストや維持管理費の節減が可能となっている。
- ・現在、給水区域では、大牟田市が推進しているエコタウン事業の中核施設RDFセンターの本格的な稼働や、民間企業の進出も進み、環境・リサイクル産業が確実に進展するとともに、石炭産業から発展した高い技術力と交通アクセスのよさから多くの企業に注目されている地域である。

○工業用水道給水区域図



注1) 取水口～高塚分水場間は熊本県宮原町工業用水道事業、大牟田市宮上水道事業との共同施設
 注2) 高塚分水場～宮原間は大牟田市宮上水道事業との共同施設